

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年5月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム このゆびと一まれ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町永里4577-2 (電話) 0993-83-1015
自己評価作成日	平成30年3月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりがその人らしく生活ができるように運営理念の基、寄り添うように支援をしている。
 ・利用者の笑い声や歌声が溢れ、利用者同士が支え合い、助け合いながら生活をしている。また、職員と一緒に家事の手伝いや軽作業をしてもらうことで、自信や存在意義の回復を支援している。
 ・帰宅願望や不安、構って欲しい思いが強い利用者に対して、時間をかけて一緒に過ごす時間を作り、安心して過ごせるように寄り添っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは知覧町郊外の工業団地の一角に位置し母体法人の敷地の中であり、同じ敷地内には特別養護老人ホームやデイサービスセンターまた介護福祉に関する事業所も併設している。法人は地域の福祉に貢献し、災害時や緊急時の相互協力体制も築かれている。
 代表者や管理者は日頃から、利用者や家族また職員ともコミュニケーションを図り、思いの把握に努めたり、意見や提案の聞ける雰囲気作りにも努めている。現状を把握している職員からの意見要望を重要視し、福祉用具を購入するなど運営に反映させケアに活かしている。
 ホームが6年前に職員と見直し、掲げた理念「あなたが笑って暮らせるように、私達がよりそっていきます。」この理念に添って、利用者はリビングに集まり楽しく語らったり、疲れると一人テラスで過ごしたり、和室で昼寝をしたり、皆との会話から離れ調理中の職員と話したりと、それぞれが日々笑ってらせる様とに、管理者や職員は利用者を思い実践に繋げているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置いたサービスを提供するとともに、いつでも自身のケアを振り返れるように、職員の目に付きやすい所に理念を掲示している。4月に職場内研修を通して、共通認識を図っている。	開設6年目で職員全員と見直し独自の理念を作成し、職員の意識付けや振り返りの機会となった。4月の年度始めには研修を行い、またミーティングや会議で話し合い意識を高め合い、全員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	学童保育との交流や有償ボランティアの活用をしている。地域行事への参加を通して地域住民と交流をしている。	地域行事の二日市やマラソンの応援に出かけたり、文化祭へは作品を出展し見学に出かけている。母体法人の夏祭りには地域からの参加者も多く、実習生やボランティア・職場体験の受け入れも行っている。また住民からの認知症の相談にも応じている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	介護科の実習生や中学生の職場体験を受け入れている。また、面会者や見学者の話聞き、困り事や心配事への理解や助言ができるように支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者が意見等を述べやすいように雰囲気作りに配慮している。状況報告や事故報告、運営報告等をし、そこで得た意見等は職員で共有し、サービス向上に活かしている。	定例化された会議は2カ月毎に開催している。状況報告・事故報告他の報告を行い、意見を交換し情報を共有している。行事と重ねた事で多くの家族の参加を得られ意見をもらい、サービスの向上につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口や電話、推進会議で状況報告や相談をおこなっている。介護保険やサービスについての不明点や疑問はその都度相談や質問をし、回答を頂いている。	市の担当者へは窓口に出向き必要な助言をもらったり、研修案内を受け参加している。昨年は南九州介護サービス連絡会が開設され会員として参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施し、理解と身体拘束ゼロに努めている。しかし、利用者の状態により身体拘束をせざるを得ない状況があった。事前にご家族への説明や市役所への相談を行い、記録に残している。	年1回独自の内部研修を職員全員で行っている。事例や課題から職員全員で理解や意識度を高めている。昼間は玄関は施錠せず、職員間の見守り・連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を実施し、普段のケアが虐待にあたらないか振り返り、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業と成年後見制度をそれぞれ1名ずつが利用し、定期的な面会や支援を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に面談や入所から退所後までの説明の機会を持ち、安心して納得した上で契約できるように努めている。介護保険改定による契約内容に変更がある場合は、推進会議や面会時に説明し、理解と同意が得られるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や要望を表し易い雰囲気作りに努めて、利用者は普段の関わりの中から汲み取るようにしている。家族とは運営推進会議や面会の時に意見等を出してもらい、運営に反映させている。</p>	<p>利用者から日々の関わりの中で意見や要望を聞き、思いを把握している。家族からは面会時や行事の参加時に意見を聞くようにしている。出された意見要望は職員と話し合い運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員全体、個別の意見や提案を聞く時間を作り、向き合うようにしている。代表者へは運営推進会議や運営会議で意見、提案している。</p>	<p>ミーティングや職員会議時に意見や提案を聞いている。風呂場のリフォームや福祉用具の購入も職員も話し合い環境整備に努めた。管理者は意見要望が出やすい雰囲気作りや資格取得の支援もしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は定期的に事業所を訪れ、職員とのコミュニケーションを図り、個々のやる気や向上心がアップするように職場環境の向上に努めている。風呂場の改修や福祉用具の購入など環境整備に協力的である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スキルアップに積極的に取り組めるよう研修への参加を促し、参加費用の負担や勤務としての参加を認めるなどバックアップ体制が整っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム連絡協議会と南九州市の事業所連絡会に所属し、定期的に他事業所と交流し、意見交換や研修への参加を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前から本人との面談を重ね、親身に話を聞くことで、安心してサービスの利用が開始できるように信頼関係の構築に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前から家族等との面談を重ね、親身に話を聞き、説明等することで安心して契約していただけるように信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族等との面談で収集した情報の中から課題やニーズを把握し、サービス利用開始後すぐに、必要な支援が提供できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共同生活の場として、一緒に茶碗洗いや洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ、菜園作り等することで助け合いの関係を築き、自信や達成感を持っていただけるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安や帰宅願望等が強い時には電話でお話をして頂いている。定期受診は家族に依頼し、医師と重要な話をするときにも立ち会ってもらっているようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所との繋がりが途切れないように外出や外泊、面会の機会を多く作っていただけるように家族へ働きかけ、車椅子の貸し出し等、必要な支援をおこなっている。また、個別の外出をおこなっている。	地元からの入所者が多く、友人知人の来訪がある。手紙や電話の取次ぎも行っている。家族の協力で墓参りや外出をされる方もいる。馴染みの人と場所の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が日常的に、身体的にも精神的にも支え合い助け合っている。人間関係を把握し、トラブルや口論になりそうなきは、間に入り未然に防ぐように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人家族が安心して次のサービスを利用できるように相談や支援に努めるとともに、ケアマネや相談員への情報提供や連絡など、連携を図っている。隣の特養へ入所した利用者の面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が生活の中での本人の言動から思いや希望を把握するように努めている。ささいな気付きでも情報として挙げ、検討し共有化を図っている。	日々の生活の中から利用者の表情やしぐさなどから思いや意向の把握に努めている。職員は傾聴に努め、思いや希望を把握する様にしている、意思疎通が困難な場合には本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりや家族との面接などを通じて情報を把握するように努め、支援に反映できるように職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間のコミュニケーションを密にし、ささいなことでも伝え話し合うことで利用者の状況や変化を多角的に捉えることができている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング以外にもミーティングや主治医との連携により必要なケアを検討し本人の生活満足度が維持向上できるよう努めている。状況に応じて家族にも情報や協力を得て、本人を支援する計画作成を意識している。	利用者や家族の、個別の思いに応じたプランである。毎月のケアカンファレンスは全職員で話し合っている。3カ月に1回のモニタリングでは状況・状態に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は主に日勤と夜勤者が行うが、他の職員も記録に目を通したり、気付いたことを伝え記すことで情報共有を図り、ミーティングで検討して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や必要性、ニーズに応じて受診や外出の支援に可能な範囲で柔軟に取り組むよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有償ボランティアの活用や消防士立ち会いの避難訓練など、安全に生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族へ依頼しており、必要に応じて情報提供書の準備や同行をおこなっている。また、利用者の身体状況等により定期受診が困難になってきた場合には、協力医療機関の訪問診療を紹介し、適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前からのかかりつけ医となっているが、利用者や家族の希望で協力医療機関へ変更し月2回の訪問診療を受けている。他科受診のみ入所以前のかかりつけ医となっている。家族が同行する時には「情報提供書」を作成するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし、2週に1度来園してもらい、相談し、アドバイスをうけている。協力医療機関へこまめに報告・相談し、早めの対応がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室とこまめに情報を共有し、安定した状態で退院ができるように協議している。また、安心してホームで生活ができるように退院後の注意点等のアドバイスを受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りに関する指針を作成し、入所契約日に説明して同意を得ている。身体機能が低下してきた場合、特養への入所申込について家族へ相談・検討をして頂いている。	入所時にホームの指針を説明し同意をもらっている。今まで看取りはないが、年1回の内部研修を行い急変時の対応方法など職員で共有している。母体法人の特別養護老人ホームとの連携もあり、主治医から家族へ状況を伝え方向性を共有出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修をおこなうとともに、初動時の流れについてはわかり易いように台所に貼りだし、初期対応が遅れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や自然災害に関するマニュアル、業務継続計画を作成している。法人合同避難訓練とGHのみの避難訓練をおこない、有事の際には同敷地内の特養の協力を得られる体制をとっている。</p>	<p>年2回消防署立ち合いで、法人合同での火災訓練を行っている。事業所のみでも火災想定訓練を年2回と土砂災害想定訓練を年1回行った。台風時は同敷地内にある特養に避難した事もある。特養との協力体制も構築され、備蓄も確保されており、災害対策は出来ている。管理者は地域との協力体制を築けるよう検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で羞恥心や自尊心を傷つけないように声掛けには十分に配慮している。また、手伝いや共同作業をしてもらったときには自信や達成感を得られるように感謝の気持ちを伝えている。	法人での研修ではなくホーム独自の研修会を行っている。職員は利用者の人格やプライドを大切に、言葉使いや羞恥心への対応を周知徹底し誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	失語症や認知症のために上手く希望を表出できない方に対しても何を伝えようとしているか時間をかけて聞きとっている。自己決定が困難になってきた方に対しては、選択肢を幾つか挙げたり、「はい」「いいえ」で決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかな時間が流れるように配慮し、それぞれの生活のリズムやペースを大切にしている。それぞれの希望に合わせて余暇の活動内容を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で何を着るか選択できる方は選びやすいように収納を工夫している。散髪は美容師に依頼し、希望を聞いてカットしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>衛生面に注意しながら、能力に応じて下ごしらえや、準備・片付けを一緒におこなっている。一緒に菜園で作った野菜を一緒に収穫し、料理に使っている。</p>	<p>献立は利用者の栄養状態や体重に増減が見られる場合は、法人の栄養士に相談している。菜園で収穫した旬の野菜で四季折々の料理に心がけている。近隣の花見には手作りの弁当持参している。春の遠足・ソーメン流し・みかん狩りやレストランへ外出に行く事もある。利用者は力量に応じ、食材の下ごしらえや、下膳の手伝いなど職員と一緒にいき、食事を楽しむことができる支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態や自助具等を検討している。栄養面については特養の栄養士へ相談することがある。また、自歯や義歯については歯科受診を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態や能力に応じた口腔ケアを支援している。義歯の管理や口腔内、自歯の状態観察をおこない、異常がある時は歯科受診を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立した排泄ができるように、個々に合った尿取りパッドを選択している。失敗した時やパッド交換の時には自尊心や羞恥心に十分に配慮した支援をおこなっている。手摺りを設置し、立位が不安定な人でも、可能な限りトイレでの排泄ができるようにしている。	排泄チェック表の活用や、利用者の表情しぐさから排泄パターンを把握し、早目のトイレ誘導に努めている。自尊心や羞恥心に配慮し、利用者に応じた声掛け誘導を実施している。夜間のみポータブル使用者がいるがほとんどが自立でトイレで排泄されている。困難な方には声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレでの排泄を基本とし、排便チェック表を活用して排便の有無や時間、量を確認している。主治医に相談し、緩下剤等を処方してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現在は皆さんが一日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入浴が可能だと契約時に説明している。入浴順番に希望がある方は、その通りに入浴してもらっている。室温や湯温は個々の好みに調整し、ゆっくり入浴できる環境を作っている。	週3回が基本ではあるが、利用者の希望や身体状況に応じて柔軟な対応をしている。入浴出来ない時には清拭や足浴に変更している。異性介助も特に問題なく、入浴をためらう方には時間を変えるなど、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温は好みによって調整をしている。日中でも、居室や和室でゆっくり休めるように支援している。窓の近くに椅子を置いていると、気持ち良さそうに日向ぼっこをしている姿が見られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように内服までに3重のチェックをしている。薬の変更があったら申し送り簿とケース記録に記載し、全員が把握できるようにしている。症状に変化があれば副作用を疑い、薬情書の確認や主治医への報告をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に合わせた家事の役割分担や趣味活動、個別のレクを提供し、一日が単調にならないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、希望があったその日に外出支援ができるように努めているが、都合がつかない時には話をし、後日支援できるようにしている。	日常的にはホームの園庭や近隣への散歩であるが、希望があれば個別にその日に外出支援をしている。そのほか地域の文化祭見学や初詣・二日市・からくり神社等へ外出するなど年間の外出計画もある。家族の支援で墓参りや帰宅また結婚式へ出席された利用者もいる。日常的に外出出来るよう工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の現金所持は自己責任としている。預かり金をこちらで管理しており、外出の際にはそれを持っていき買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じてご家族への電話の支援をしている。現在、携帯電話を所持している利用者もいて、充電や操作の支援をおこなっている。毎年、ご家族には年賀状を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調光や空調に配慮し、華やかな装飾はせずに利用者と制作した壁飾りや季節の花を飾り利用者全員が居心地がよい空間になるようにしている。	共用空間は木造りで、壁には華やかな飾りはせずに利用者との手作り作品や季節の花を飾るなどゆったりと過ごせるように工夫している。周りをテラスにしており、自由に外に出て日光浴を楽しまれる方や、畳の部屋では時折昼寝を楽しまれる利用者もいる。居心地よく過ごせる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>他者との関わりに疲れた時は、日当たりの良い窓際に椅子を置いていると気持ち良さそうに日向ぼっこをされたり、台所に来て職員とお話をする姿が見られる。テーブルは座る位置を決めておらず、その日その日で気の合う人が隣同士で座っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた家具等を持って来ていただけるようお願いし、思い出の写真などを飾り付けて居心地良い居室になるように工夫している。</p>	<p>ホームの設置品以外は、入所以前に使い慣れた馴染みの家具やタンスを持ち込まれている。壁には家族写真・手作り作品を飾られるなど、利用者本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレ、風呂場の入口には表札を掲げている。廊下やトイレには手摺りを設置している。居室側戸の下には足元等が点いている。口腔ケア道具の棚を使いやすくわかり易いように手作りする。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない